

ひぐらし 蝸の記

鑑賞日 2016・12・12

制作 2014 年 「蝸ノ記」製作委員会

上映時間 129 分

監督 小泉堯史

原作 葉室 麟

出演 役所広司、岡田准一、堀北真希、原田美枝子、寺島しのぶ

(あらすじ)

城中で刃傷沙汰を起こしてしまった檀野庄三郎（岡田准一）は、本来なら切腹ものとなることを家老（串田和美）から、罪を免ずる代わりに、切腹の日まで戸田秋谷（役所広司）を監視せよとの命をうける。秋谷は郡奉行の身でありながら側室と不義密通をし、小姓を切り捨てるという前代未聞の事件を起こし、十年後の夏に切腹すること、また、切腹の日まで三浦藩の「家譜」を編集し、完成させることを命じられていた。その切腹の日、3 年後に迫っていた。庄三郎に与えられた監視の内容とは、秋谷の起した事件が家譜にどう書かれたかを報告し、家譜編纂により藩の秘め事を知った秋谷が逃亡を企てた時は、容赦なく妻子ともども切り捨てよというものだった。幽閉中の秋谷を訪ねた庄三郎は、秋谷の妻・織江（原田美枝子）、娘・薫（堀北真希）、息子・郁太郎（吉田晴登）と生活をともにし始める。

編集途中の「三浦家譜」と秋谷の日記「蝸ノ記」を見た庄三郎は、切腹という苛酷な運命が待っているにもかかわらず、“なにごとにも生きた事実のまま書きとどめよ”という前藩主の言葉を守り、一日、一日を大切に家譜づくりに勤しむ秋谷の姿に感銘を受け、切腹に追い込まれた事件に疑問を抱く。そして、彼を救うべく真相を探り始める。そんな庄三郎に薫は徐々に心を開いていき、庄三郎も心の美しい薫に惹かれていく……

(解 説)

原作は、時代小説として破格の累計 50 万部の発行部数を記録した葉室凛の「蝸ノ記」。2012 年第 146 回直木賞受賞作である。監督は黒澤明監督の門下の小泉堯史。戸田秋谷は藩主の側室との不義密通の汚名を着せられ、10 年後の切腹を命じられ、その間、家譜の作成に当たることとされているが弁明を一切せずにひたすら家譜の編纂に励んでいる。その清冽な生き方が清々しい。秋谷の家族も汚名を着せられているにも関わらず、夫を父親を尊敬している。その家族愛が美しい。また、秋谷は郡奉行の経験があるだけに、農民の暮らしに気を配り、農民から慕われている。こうした人柄に触れた庄三郎はいつしか秋谷を師と仰ぐようになる。映画は 10 年の年月を経て家譜編纂が完了したとき、秋谷は事件が冤罪であることを訴えることもなく、従容として腹を切る。これは、封建制のもとでの主命による切腹ではなく、藩を救うための最善の道であると信じたからであろう。